

脆弱性診断から保守まで

ネット安全一貫サポート

高根沢のSSCT

国や県が出資する第三セクターのシステムソリューションセンターとちぎ(SSCT)、高根沢町宝積寺は18日までに、インターネットセキュリティのトータルサポート事業を始めた。県内企業や自治体などのウェブサイトの脆弱性を診断し、問題点の改修や保守サービスまでを一貫体制で提供する。小林篤史社長は「ワンストップでサポートするサービスは県内IT企業では初めて」としている。(高山知昭)

ウェブ制作会社と連携

ウェブサイト制作などのマリンロード(宇都宮市東宿郷3丁目、石川博司社長)と事業提携し、両社の強みを生かして取り組む。SSCTはIT分野の人材育成に向けた研修や各種相談のほか、従来から行っているサイト診断などを担当。マリンロードはウェブシステムの開発や運用なども手掛けており、診断結

果に基づいてソフト、ハード両面の問題点を改修、継続的な保守業務などを担う。具体的なサービスは利用

希望企業のネット接続環境、サイトの脆弱性などの問題点を検証した上で、ニーズに応じて組み替えて提供する。平均的な料金は年間約200万円。本年度は10社・団体と契約し、2千万円の売り上げを目指す。

27%増の1万5227件。ことし7月にはベネッセコーポレーションで顧客情報の大規模流出が発覚するなど、企業が保有する情報を狙った犯罪は後を絶たない。

SSCTは「サイトの安全性を確保するには高度な知識と技術が必要。担当部署やスタッフがいない企業や団体に質の高いサービスを提供し、安全なネット環境の構築に役立ててもらえれば」としている。